

株式会社 京都銀行

京都市下京区烏丸通松原上る
郵便番号600-8652

「京銀未来ファンド2号」第14号案件への投資について

～腎臓再生医療の研究等を行う京大発ベンチャー「リジェネフロ株式会社」へ投資～

京都銀行（頭取 土井 伸宏）が、2019年2月にグループ会社の京銀リース・キャピタル株式会社（代表取締役社長 奥野 浩）と共同で設立した「京銀未来ファンド2号」は、第14号投資案件として、「リジェネフロ株式会社」へ投資いたしました。これにより「京銀未来ファンド1号」および「京銀未来ファンド2号」での投資先は、29社となります。

「リジェネフロ株式会社」は、京都大学 iPS 細胞研究所（CiRA）増殖分化機構研究部門の長船 健二教授の研究成果をベースに、ヒト iPS 細胞を用いた腎疾患に対する再生医療の研究・開発を進める、京都大学発のベンチャー企業です。長船教授が発明した iPS 細胞由来の腎前駆細胞には腎障害の改善効果が期待されており、実用化で、腎疾患に苦しむ多くの患者の生活の質（QOL）の向上に繋がると注目されています。

京都銀行グループでは、将来成長が期待できる創業企業やベンチャー企業、中小企業のほか、事業承継ニーズを有する中小企業等に投資を行うことで、持続可能な経済成長の実現に向けて、地域の発展と成長に貢献できるよう取組んでまいります。

記

1. 投資先概要

企業名	リジェネフロ株式会社
代表者	代表取締役 石切山 俊博
所在地	京都市左京区聖護院川原町5-3 京都大学大学院 医学研究科メディカルイノベーションセンター棟
設立	2019年9月
事業内容	腎疾患治療薬の研究開発・生産・販売

2. 投資額

10,011,000円

3. 投資について

京都大学 iPS 細胞研究所 (CiRA) 増殖分化機構研究部門の長船 健二教授の研究成果をベースとして、ヒト iPS 細胞を用いた腎疾患に対する再生医療の研究・開発を行う「リジェネフロ株式会社」に、技術の実用化に向けた事業資金として投資を行う。

4. 京銀未来ファンド2号の概要

名 称	京銀輝く未来応援ファンド2号投資事業有限責任組合 (略称：京銀未来ファンド2号)
投資対象	当行営業エリア内に本社を置く以下の企業 ・独自技術や新規性のあるビジネスモデルを有し、将来成長が期待できる創業企業やベンチャー企業、中小企業等 ・後継者不在など事業承継ニーズを有する中小企業等
出 資 者	無限責任組合員 (GP)：京銀リース・キャピタル株式会社 有限責任組合員 (LP)：株式会社 京都銀行
ファンド総額	20億円
当行出資額	19億80百万円
設 立	2019年2月25日
存続期間	10年 (ただし、合意により2年間の延長可能)

以 上

京都銀行グループでは、従来から「地域社会の繁栄に奉仕する」という経営理念に基づいた企業活動を行ってまいりました。今後も経営理念のより一層高いレベルでの実践である SDGs 達成に向け、地域の社会課題の解決に貢献してまいります。なお、関連するプレスリリースにその目標である SDGs のアイコンを明示しております。

【SDGs】2015年9月に国連で採択された、経済・社会・環境のあり方についての2030年までの世界共通目標。17のゴールと169のターゲットで構成されている。

